

総合評価

令和7年度の自己評価結果から、本園においては、子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添う保育が丁寧に実践されており、子ども理解や安全面への配慮について高い意識をもって保育が行われていることが確認された。

また、日々の遊びや生活を通して、子どもの主体性や安心感を大切にする保育姿勢が職員間に共有されていることが評価結果にも表れている。

一方で、保護者への情報発信、職員研修、関係機関連携等については、更なる充実が求められる結果となった。今後は、組織的な学びや連携体制を強化し、継続的な保育の質向上に取り組んでいく。

評価傾向

領域	評価傾向
子ども理解・関わり	高評価
安全管理	高評価
環境構成	概ね良好
主体的な遊びの保障	良好
保護者支援	改善余地あり
研修・専門性向上	課題あり
関係機関連携	課題あり

傾向分析

- ・ 日常保育の基盤となる「子ども理解」「安全配慮」は安定している
- ・ 子どもの主体性を大切にする保育意識が浸透している
- ・ 組織的な研修や外部連携については継続的改善が必要

強み・課題整理

強み

- ・ 子どもの気持ちに寄り添った丁寧な関わり
- ・ 安全を意識した保育環境づくり
- ・ 遊びを通した主体的活動の支援
- ・ 職員間での基本的な保育観の共有
- ・ 日常生活を大切にした保育実践

課題

- ・ 保護者への情報発信の充実
- ・ 園内研修・自己研鑽機会の強化
- ・ 関係機関との連携理解の深化
- ・ 保育内容の可視化
- ・ 職員間での実践共有の仕組みづくり

今後の改善方向

- 園内研修の計画的実施による専門性向上
- 保護者への発信機会の充実
- 関係機関との連携体制の強化
- 保育実践の共有と振り返りの充実
- 子どもの主体性をさらに保障する環境構成の工夫
- 職員同士が学び合える組織づくりの推進

今後も、子ども一人ひとりが安心して自己を発揮できる環境を大切にしながら、保護者・地域との信頼関係を深め、より良い保育の実現を目指していく。